

1 あいさつ

2 協議事項

(1) 平成25年度上半期事業計画(案)について

(事務局：資料に基づき説明)

(委員)

資料の中の日付と曜日が実際のカレンダーとずれている箇所があるので訂正していただきたいです。

(事務局)

確認して訂正しておきます。

(2) 平成25年度展示計画(案)について

(事務局：資料に基づき説明)

(事務局：資料に基づき企画展「安城の文化財」説明)

(事務局：資料に基づき特別展「南吉が安城にいた頃」説明)

(委員)

南吉展のオープニングセレモニーは、どのようなことを考えているのですか。

(事務局)

どういう内容でというのはまだ検討中なのですが、いわゆるセレモニー的なものを除いたところでどういう方に何をやっていただくかは、合唱団の方々に安城高女の時代の歌を歌っていただくことなどを考えていますが、皆さんにお話できるほど煮詰めていないのが現状です。なるべく早く皆さんにご提示できるようにしていきたいと思っています。

(委員)

他の企画展では行わないオープニングセレモニーを行うということは、それだけ内容にも力をいれていることでしょうか。

(事務局)

内容的にも関連イベント的にも、とにかく市をあげてやっていこうと思っています。市でやる行事の中でも中心的なイベントとなることは市長以下、言っています。私たちもこれは中心のひとつにやっていこうと思っています。企画展示室で行う展覧会の中身そのものは、今までの南吉像を大幅に変える内容をというのは今の時点ではなかなか難しいといえます。それとは別に南吉がいた時の安城の町並みは、どのようであったのかとかを深めることもできますが、少しでも新しい南吉像が出せるように資料を集めていきたいと思っています。がしそのあたりはもう少し検討していきたいと思っています。

(委員)

図書館でも南吉に力を入れているが、図書館との連携は考えているのですか。

(事務局)

南吉大賞の絵本を紹介するイベントを図書館が市内で行います。そしてまだ案の段階ですが、その一環として8月中旬にギャラリー展示室Cを使って35点の入選作と最初に選考した145点を展示することを考えています。

(委員)

博物館は博物館らしいことを行っていただきたいです。

(事務局)

企画展示室で行う展覧会については、なるべく研究成果や現在の南吉研究の水準を反映したものにする一方、もう一方のギャラリーでは原画や絵本大賞の入賞作品を展示したり、児童クラブや保育園の子たちも何らかの行事でかかわっていただくことも通じて、両方があって誰もが親しめて研究者の人も満足できることを博物館だけでなくギャラリーも一体となって生涯学習部全体が少し打ち上げてやっていくことができればいいと考えています。

(委員)

特別展は、観覧料は無料ですか。

(事務局)

本来の規定では400円ですが、少しでもたくさんの人たちに来ていただきたいという意向で、今回は無料で開催する予定です。

(委員)

南吉展に関しては半田市でも展覧会を考えていると思うが、安城の特色を出すには特別展のタイトルを「新美南吉の教員時代」として安城の特色を前面に押し出していく方がいいと思います。半田で生まれて安城の教員時代に安城の下宿に住むわけなので、新田から学校に通っていたのであるから、下宿生活の様子だとかを展示に出していても良いのではないのでしょうか。

もうひとつは講演会が色々ありますが、教員時代ともなれば教え子の方がまだたくさんいるはずなので、教え子の方と南吉を研究されている方を交えたトークショウでもいいので、そのようなことをしていくのもいいのではないのでしょうか。

また下宿先から桜町小学校まで歩いて途中で史跡などがあれば説明をしていくウォークラリーをしていくのもどうでしょうか。

安城時代は教員をしていたことを前面に出せば、安城では教員をしていたのかと知ってもらい安城の名前を知らせる良いきっかけになると思います。そうすれば展示資料の英語の答案も生きてくるのではないのでしょうか。

(事務局)

ご提案をいただいたタイトルと教え子との対談については、対談に参加していただける教え子の方がいるのか、また対談に加わる研究家の方がいるかは一度検討させていただきたいです。英語の答案については館長が動いております。

(事務局)

英語の答案用紙につきましては、昨年末に実物を見せていただいて出品依頼をしました。南吉が英語の先生であったことはあまり知られていないです。子供たちにも興味を持ってもらえるように、この特別展に先立って安城の中学校2年生全員に南吉先生の英語の問題に挑戦していただこうと思っております。答案用紙の中から2年生の一学期までに対応可能な問題をピックアップして挑戦すれば解いた生徒たちも南吉に興味を持ってくれるのではないのでしょうか。

また南吉が英語の教員であったこともPRできるのではないのでしょうか。答案用紙は筆記体で書かれており、今の生徒たちは筆記体を習っていないので問題作成に当たってはそのことを考慮していきたいです。

安城高女で使用していた教科書も東京の方から借りられることになったので、当時はこのような教科書を使っていたということも紹介できます。

(委員)

「南吉が安城にいた頃」というと時代を中心に出していくと思うのだけれど、戦争が暗い影を落としていくが英語教育がどの時代までどのように行われていたのかということも調べてやっていただきたいです。

(事務局)

そのあたりも含めて進めていきます。英語が途中から選択制になったことや、タバコの名前が英語から日本語になったことは南吉も日記に書いていますので、時代背景も含めた展示になると思っています。

(委員)

英語の発音なのですが、大阪の街中から安城高女に引っ越してみえた方がいて、南吉の授業を受けたのだけれども南吉の英語はわりと日本風だったと聞いています。また南吉に教わった方々が作文帳を出しているが、まだ出てきていない資料もあると南吉に親しむ会の方から聞いています。

南吉が赤ペンで添削した作文帳も出るのでしょうか。

(事務局)

はい、展示予定です。

(事務局)

普通に考えると借りたまま返却をしなくてはならないので、綴じてある原稿を全部開いて見せて終了後は元に戻して返却するというのは少し難しいことです。作文帳のいずれかのページを開いて展示する形になります。

(委員)

南吉が下宿していた家があるということですが。

(事務局)

南吉が下宿していた部屋を再現することを考えています。

(委員)

「南吉」展に話が集中していますが、その前の「モノ語り名品展」ですが「安城の文化財」を何回に分けて行うとのことだが、「モノ語り名品展」というのは今回に限ったテーマなのですか。

(事務局)

今のところはそうのように考えています。来年度行うときに副題が変わることも考えています。

(委員)

今回の内容からいうとモノも名品もたくさん出ているという感じはしないので、全回を通じての副題になるのかと思いました。

(事務局)

今までのタイトルでこれはというものが無かったのでこのタイトルをつけました。文化財が名品だといえば通るかと思いますが、目玉になるものが無いといえばそのとおりだと思います。

(事務局)

目立つものといえば聖徳太子絵伝の模写が博物館としては初公開になります。内容も結構迫力あるものとなっています。これは10幅完成したところで、別に展覧会を催しても良いと思います。

(委員)

模写は2幅だけの公開ですか。

(事務局)

常時出ているのは2幅で、1回展示替えをします。軸装前のものが前期後期で通算ふたつなので、見にくる気になれば4種類のものが見られます。

(委員)

一学期ですので小中学校の見学もたくさん来ると思うのですが、展示の内容の時代がとても長くて種類もたくさんあるので子供たちが興味を持ちやすいものが出てくると思います。逆に展示する側はあまりにも種類が多いので解説を作るにも大変だと思いますが、せっかく安城の子が来て安城の歴史を学んでいくので表現なども小中学生でもわかりやすくしてもらいたい。ふりがなを振ってもらうのも意識してもらいたいと思います。

(事務局)

この時期というのは見学学習が集中しています。この展示を見て自分の身近にこういう文化財があることを知ってもらう機会になってもらいたいです。なるべくそれぞれの地域に文化財があることを知ってもらえればいいなと選択を行っていきたいです。

(委員)

展示物には学術的な名前が多いのでしかたないのですが、古文書などは翻刻をするだけでなくその古文書がどんな意味を持っているのかを解説して欲しいです。

また25年度の催しの最後になる「鹿乗川流域遺跡群」ですが、シンポジウムなどを考えているのでしょうか。

(事務局)

できればやりたいと思っています。

(委員)

NPOによる古文書の修理体験というのがありますが、体験するのはNPOなのか参加者なのかどちらでしょうか。

(事務局)

参加者が体験します。本物の古文書は使用できないので、それに近いものを使って一般参加者が古文書修復の体験をしてもらいます。

(事務局)

古文書の修理体験というのは墨仁堂という国宝や重文の修理もできる業者が作ったNPOですが、その人たちが日ごろどのようなことを行っているのか、その入門の部分で古文書のダミーのようなものを使って穴埋めなどを体験してもらう内容です。

(委員)

タイトルもそのところがわかる工夫をしたら良いのではないのでしょうか。

(委員)

「古文書修理を体験する」とかにしたらどうでしょうか。

(事務局)

「古文書を修理してみよう」とかに変更できるかNPOと相談したいと思います。

(委員)

「古文書の手ほどき」は参加者が多いと聞いたが、15人に限るとなっていますがこれも定員を多くすると難しいのでしょうか。

(事務局)

やはり15人程度くらいが一番面倒を見やすいです。

3 その他

(会長)

その他については何かありますでしょうか。

(事務局：博物館協議会委員公募についての説明)

(議事終了)

(事務局：あいさつ)

(企画展内覧)